東　俣　野 10月号
東俣野小学校　学校だより　　令和３年９月３０日

秋の訪れ

副校長　大山　高幸

朝夕の空気に秋の訪れを感じる今日この頃です。

さて、秋に咲く草花の中で、秋を代表する七種の草花とは、萩(はぎ)、尾花(おばな)、葛(くず)、撫子(なでしこ)、女郎花(おみなえし)、藤袴(ふじばかま)、桔梗(ききょう)のことです。風に吹かれた草原で昔から馴染みのある草花ですが、今ではほとんど目にしないものもあり、名前は聞いたことはあるけれど、さて、どんな姿かたちをしているか・・・という人もきっと多いかと思います。

しかし、すすきは姿かたちもよく知られています。七種の草花の尾花は、すすきのことをさします。秋の七草はすすき原とその周辺に生えていたそうです。すすきは牛馬に与えられたり、茅葺き屋根に使われたり、余れば焼かれて灰になり畑の肥料にするなど昔は暮らしに欠かせないもので、特に茅葺きの屋根には大量のすすきが使われていました。乾燥したすすきは雨に強く、また屋根に使われ燻されることでさらに丈夫になりますが、二、三十年に一度は葺き替える必要があり、その時は村人総出で作業を行ったそうです。今では見ることのなくなった、日本の原風景といえるでしょう。

そんな秋の草花に耳を傾けると、にぎやかな秋の虫の鳴き声が聞こえてきます。

ほとんどの鳴く虫はオスが鳴いていますが、翅をこすり合わせただけで、あれほどの音量の美しい音を出すとは驚きです。秋の虫の代表と言えばスズムシ、漢字では「鈴虫」と書きますが、読んで字のごとく鈴のように「リーン・リーン」「リンリンリンリン・・・」と、大変美しい鳴き声です。スズムシと並んで鳴く虫の定番はコオロギでしょう。現在日本には 31 種類のコオロギがいると言われていて、「コロコロリー」「リッリッリッ」「リーリーリー」と、種類によって鳴き声は様々です。木から大きな声で「リーリーリーリー」と聞こえてきたらアオマツムシ。他にもキリギリスやウマオイなど、この時期秋の鳴く虫オールスターの揃い踏みです。日本では奈良・平安時代からすでに鳴く虫の音色を楽しむ文化があったようで、季節感や風流を大切にする人々の感性を感じます。そんな秋の虫の声も聞かれるのは 10 月まで。虫の声が聞かれなくなると同時に、季節は秋から冬へと少しずつ変わっていきます。